大すきいっぱい西北の子

～学びづくり、くらしづくり、仲間づくり～

令和５年５月１７日
長崎市立西北小学校
文責：校長　江原芳樹
第１号

５月は風の季節です。学校では、出会いの４月から、活動の５月へと移り変わり、様々な場面で、子どもたちの活動的な様子が見られるようになりました。昨年度までも５月は運動会へ向け、活動的ではあったのですが、今年はより一層活動的です。その要因は、子どもたちの「声」にあります。運動会の歌や応援の声、これまで制限や配慮を心がけてきた大きな声出しが、思い切り堂々とできるようになりました。朝から響く応援の声に、学校が息を吹き返したイメージすらします。

教育活動に制限がなくなった今、「元に戻すこと」と「精選して止めること」、そして「新しく創造すること」を見極めながら、西北小学校を前進させていきたいと思います。

応援団長認定式

５月２８日（日）は、運動会です。代表委員会で決まった運動会のテーマは、「勝利の道へ 西北魂 かけぬけろ！」です。「西北魂」という言葉が、子どもたちの心に灯をともした印象でした。それぞれの子どもたちにある「西北魂」を運動会で大いに発揮することを期待しています。

さて、運動会は３色に分かれ、色対抗で行われます。各学年縦割りで色集団を構成し、６年生の応援団長を中心に、優勝を目指し取り組みます。

そこで、先日各色の応援団長に、運動会の成功を託す意味から「応援団長認定証」を渡しました。やる気いっぱいの応援団長を中心に、各色で工夫した応援が見られるようです。ぜひ、応援の様子にも注目してください。

なお、運動会当日は、参観のための場所取りは控えていただき、譲り合って参観をお願いします。また、ビデオや写真などＳＮＳでのアップは控えるようお願いします。

あいさつ力

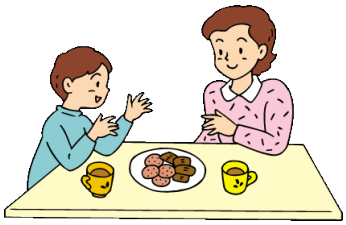
朝から立哨をしていると、子どもたちが元気に挨拶をしてくれます。校長室の前を通るときに、顔を出して挨拶してくれる子どもたちもいます。自分から挨拶できる力は、より良い自分づくりに欠かせない力です。

さて、「あいさつ」は、学校においても指導しますが、その土台となる力はやはり家庭教育です。学校で指導しなくとも、１年生から立派なあいさつができる子の背景には、温かな家庭教育の力を感じます。

「あいさつ」と「家庭状況」の相関関係を調査した興味深い報告があります。

調査結果から次のようなことが報告されています。

【家庭内でよくあいさつをしていると答えた子どもの家庭状況の上位】
　１位：家庭での団らん時間→家庭内でのコミュニケーション時間
　２位：家庭生活への満足度→家庭内での充実感
　３位：家での手伝い時間→家庭内で役割をもっている
【家庭内でよくあいさつをしていると答えた親の子どもに対する家庭状況の上位】
　１位：家での手伝い時間→家庭内で役割をもっている（「ありがとう」の場面）
　２位：家庭での団らん時間→子どもの話を聞く時間
　３位：親自身の家庭生活満足度→家庭内での充実感（の共有）



　子どもも親も上位は同じです。
　興味深いのは、「お手伝いの時間」です。「お手伝いの時間」が長いほど、よくあいさつをしているとの相関関係が見られています。
　自分の役割や出番が家庭内にあり、その役割や出番に対し「ありがとう」と応えてくれる人（親）がいることが、子どもの「あいさつ力」につながっているのでしょう。

保護者の皆様にお伝えしたいこと①

　西北小学校の校訓は「美しい学校」です。「美しい」というのは、環境面の話ではなく、学校に係る子ども、教職員、保護者、地域の方々の在り様を示しているのだと考えています。
　そこで、今年から西北小学校のテーマを「大すき」としました。「大すき」は「大切にする」という意味です。「学校大すき、お友達大すき、お父さんお母さん大すき、先生・地域の方々大すき、そして、私は私が大すき」と感じる子どもを育てたいと願っています。
　そのためにも、子ども自身がより良い自分づくりに取り組むことが大切だと考えています。学校生活を通して、「学びづくり」「くらしづくり」「仲間づくり」に取り組む子どもを目指します。保護者の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いします。

《校長散歩道　No. １ 》

　「子どもが変わった。」とは、大人の視点からの言葉だろうと思います。確かに社会環境、生活環境は変わりました。そうした変化をもっとも受けるのは子どもですから、子どもが変わったように見えるのは理解できますが、私は「子どもの本質は変わっていない。」と信じています。とは言え、多様化していると感じているのも事実です。
　その多様化した現状にどう対応するのか考えるとき、「大人の視点から」を変えていかなくてはと気付くようになりました。
　「スーツケースから風呂敷へ」という言葉があります。スーツケースは型と大きさが決まっていますので、それに合わない型や大きさを受け入れることができません。しかし、風呂敷は多様な型や大きさに応じてその包み方を変えることができます。長い棒であっても、いびつな形であってもです。これが「大人の視点から」を変える方法です。子どもは大人の用意した型や大きさに収まらないものです。風呂敷のように、その子にあった包み方ができる大人でありたい。願いばかりですが、そう考えているところです。